

アイガモロボによる労力軽減・農薬軽減 (グリーンな栽培体系への転換)

大崎市有機農業・グリーン化推進協議会
世界農業遺産推進監 安部祐輝

大崎耕土
世界農業遺産



OSAKI
KOUDO

GLOBALLY IMPORTANT
AGRICULTURAL
HERITAGE SYSTEMS

大崎耕土
世界農業遺産



OSAKI
KOUDO

GLOBALLY IMPORTANT
AGRICULTURAL
HERITAGE SYSTEMS

世界農業遺産 大崎耕土
「持続可能な水田農業を支える
大崎耕土の伝統的水管理システム」

世界農業遺産 (GIAHS)

- ・ 世界的に重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域（農林水産業システム）を国際連合食糧農業機関（FAO）が認定
- ・ 世界では24カ国78地域，日本では15地域が認定（令和5年7月現在）

<世界遺産（UNESCO）との違い>

世界遺産

- ・ 不動産で歴史重視
- ・ 遺跡や建造物が主
- ・ 「～してはならない」
- ・ **現状を変えないことが基本（保護・保存）**

世界農業遺産

- ・ システムで未来志向
- ・ 進化する知恵の遺産
- ・ 「～したほうがいい」
- ・ **社会や環境に適応した動的な保全**

<日本の認定地域>



→ **未来に残す（次世代に引き継ぐ）**

世界農業遺産の5要素と大崎耕土の農業システム



生物多様性を保全，生きものと共生する農業を推進



国内農業の現状・課題

- 生産者の減少・高齢化
- 温暖化, 大規模自然災害
- SDGsや環境への対応強化



農林水産省が令和3年5月に「**みどりの食料システム戦略**」を策定

- 化学農薬の使用量（リスク換算）を50%低減**
- 輸入原料や化石燃料を原料とした化学肥料の使用量を30%低減**
- 有機農業の取組面積の割合を25%（100万ha）に拡大 etc.**

市内での有機農業・グリーン化の推進

大崎市有機農業・グリーン化推進協議会(R4年5月～)

○目的

みどりの食料システム戦略と協調，**グリーンな栽培体系**への転換に資する検証事業に取り組み，世界農業遺産「大崎耕土」で有機農業や環境保全型農業の普及を図る。

*** グリーンな栽培体系** → 「環境にやさしい栽培技術」及び「省力化に資する先端技術等」

○協議会の構成員

農業者，農機メーカー，JA等の農業団体，県や市の行政等関係者で組織する。

市内での有機農業・グリーン化の推進

○活用事業：農水省『グリーンな栽培体系への転換サポート』（R4～R6）

○実践内容：平地部会と中山間部会に分け，地域に合わせた栽培実践と検証を
実践。

- ・ **アイガモロボ**活用による水田の雑草抑制
- ・ **スマホ水管理システム**による水田水位の遠隔管理



有機米デザインとの連携協定，持続可能な農業推進



アイガモロボを活用した有機産地形成の連携協定

